

科目名	機能解剖学						
担当講師	渡辺幸太郎						
実務経験の概要	理学療法士 病院、スポーツ現場にて実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義・実技						

授業概要

運動メカニズムを形成する各運動器の関係性を解剖学見地から学ぶ。

学修到達目標

運動時における各運動器の位置関係や機能の関係性を述べることができる。

授業計画

- 第1回 身体運動の基礎・関節の構造と機能・筋の構造と機能
- 第2回 膝関節の骨・関節構造
- 第3回 膝関節の運動制御・機能障害と運動学
- 第4回 足関節の骨・関節構造
- 第5回 足関節の運動制御・機能障害と運動学
- 第6回 股関節の骨・関節構造
- 第7回 股関節の運動制御・機能障害と運動学
- 第8回 肩関節の骨・関節構造
- 第9回 肩関節の運動制御・機能障害と運動学
- 第10回 肘関節の骨・関節構造
- 第11回 肘関節の運動制御・機能障害と運動学
- 第12回 脊柱・胸郭の骨・関節構造
- 第13回 脊柱・胸郭の運動制御・機能障害と運動学
- 第14回 基本動作と機能解剖
- 第15回 スポーツ動作と機能解剖

評価方法

レポート課題 (30%) 筆記試験 (70%)

教科書

配布資料

参考図書・文献

市橋則明：身体運動学. MEDICAL VIEW (2017.10)
 工藤慎太郎：運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略. 医学書院 (2017.4)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

臨床実践に基づいた話題提供も多く取り入れるため、実際の臨床場面を想像しながら積極的に参加することを望みます。

科目名	病態生理学						
担当講師	菊池賢汰 戸来幸恵 及川龍彦						
実務経験の概要	菊池賢汰 : 理学療法士 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する. 戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する. 及川龍彦 : 理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する.						
履修年次	2	単位数	2	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/オムニバス						

授業概要

生体恒常性が失われた人体の運動に至るまでの仕組みを理解できるよう学修します。

学修到達目標

1. 骨関節系領域における障害発生の原因とメカニズムを理解できる。
2. 脳・神経系病変により生じる病態や症状、仕組みを理解できる。
3. 内部障害分野における障害発生の原因と機序を理解できる。

授 業 計 画

第1回	骨折の病態	菊池賢汰
第2回	関節機能障害の病態	菊池賢汰
第3回	捻挫・脱臼の病態	菊池賢汰
第4回	関節変形の病態	菊池賢汰
第5回	腱・靭帯損傷の病態	菊池賢汰
第6回	筋損傷の病態	菊池賢汰
第7回	末梢神経損傷の病態	菊池賢汰
第8回	皮膚損傷の病態	菊池賢汰
第9回	脳の循環障害（脳血管障害）①	戸来幸恵
第10回	脳の循環障害（脳血管障害）②	戸来幸恵
第11回	頭部の外傷①	戸来幸恵
第12回	頭部の外傷②	戸来幸恵
第13回	脳・神経系関連感染症、脱髄①	戸来幸恵
第14回	脳・神経系関連感染症、脱髄②	戸来幸恵
第15回	脳・神経系の変性①	戸来幸恵
第16回	脳・神経系の変性②	戸来幸恵
第17回	内部障害の特徴①	及川龍彦
第18回	内部障害の特徴②	及川龍彦
第19回	呼吸器疾患における障害の発生①	及川龍彦
第20回	呼吸器疾患における障害の発生②	及川龍彦
第21回	循環器疾患における障害の発生①	及川龍彦
第22回	循環器疾患における障害の発生②	及川龍彦
第23回	代謝疾患における障害の発生①	及川龍彦
第24回	代謝疾患における障害の発生②	及川龍彦

評価方法

筆記試験（菊池1/3, 戸来1/3, 及川1/3）

教科書

運動器障害理学療法学テキスト（南江堂） プリント教材

参考図書・文献

内部障害理学療法テキスト（南江堂）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

骨関節分野では解剖・生理・運動学の基礎的知識が講義内容の理解に関わります。十分に復習した上で臨んでください。
(菊池) 1年次で学んだ解剖学・生理学・運動学をしっかり復習して講義を受講してください。(及川)

科目名	バイオメカニクス論						
担当講師	野中一成						
実務経験の概要	理学療法士 病院および施設にて、医療、介護領域の実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	前期
授業形態	講義/実習						

授業概要

人体の動作や運動のメカニズムを理解し評価・推論形成、動作誘導などの学習を行います。

学修到達目標

1. 身体運動のバイオメカニクスを理解する。
2. 姿勢保持に必要な身体メカニクスを理解する。
3. 動作における身体メカニクスを理解する。

授 業 計 画

- | | |
|------|------------------------|
| 第1回 | バイオメカニクス総論 |
| 第2回 | 背臥位姿勢の概要・評価・推論（臨床観察） |
| 第3回 | 寝返り動作の概要・評価・推論（臨床推論） |
| 第4回 | 起き上がり動作の概要・評価・推論（臨床推論） |
| 第5回 | 背臥位・寝返り・起き上がり動作まとめ |
| 第6回 | 座位姿勢の概要・評価・推論（臨床推論） |
| 第7回 | 立ち上がり動作概要・評価・推論（臨床推論） |
| 第8回 | 着座動作概要・評価・推論（臨床推論） |
| 第9回 | 立位姿勢の概要・評価・推論（臨床推論） |
| 第10回 | 座位・立ち上がり動作・立位まとめ |
| 第11回 | 歩行動作概要・評価・推論（臨床観察） |
| 第12回 | 歩行動作概要・評価・推論（臨床観察） |
| 第13回 | 各姿勢・動作のまとめ |
| 第14回 | 応用動作概要 |
| 第15回 | まとめ |

評価方法

筆記試験（80％）、レポート（20％）

教科書

プリント教材

参考図書・文献

動作分析臨床活用講座ーバイオメカニクスに基づく臨床推論の実践一、実践動作分析

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

動作観察から何故そのような姿勢や動作を行うのか推論立てる習慣をつけて下さい。
他授業と重複するものも多くあるため姿勢や動作分析関連の授業は復習しておいてください。

科目名	老年学						
担当講師	藤原智秀 吉田龍一						
実務経験の概要	藤原 智秀 理学療法士 医療施設にて実務経験を有する。 吉田 龍一 理学療法士 医療施設にて実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

自然退行と老年期における人体の特徴を学ぶとともに、高齢者の特徴的疾患とリハビリテーションについての理解を図ります。
成年、中高年と高齢者の違いや関わり方についての理解を図ります。

学修到達目標

1. 老年期の身体、精神機能の変化と病態、障害について理解できる。
2. 高齢者に対するリスク管理や接遇について理解できる。

授 業 計 画

第1回	老年学と老化	藤原 智秀
第2回	加齢に伴う生理機能、運動機能の変化	藤原 智秀
第3回	高齢者に多い症候と老年症候群①	吉田 龍一
第4回	高齢者に多い症候と老年症候群②	吉田 龍一
第5回	高齢者のリハビリテーションの考え方と機能評価	吉田 龍一
第6回	高齢者のリハビリテーション リスク管理と接遇	吉田 龍一
第7回	高齢者理学療法の実践～非協力的な対象者を中心に～	藤原 智秀
第8回	高齢者の社会保険制度～介護保険を中心に～	藤原 智秀

評価方法

筆記試験

教科書

必要に応じて資料配布

参考図書・文献**履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)**

科目名	臨床心理学						
担当講師	遠藤 麻友美						
実務経験の概要	臨床心理士 カウンセリング等、実務経験を有する						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

臨床心理学は、「人間の行動の適応調整や人格的成長を促進し、不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、問題を軽減・解消することを目指す学問」です。この講義では、臨床心理学の入門コースとして、その対象、アセスメント、および介入法について学びます。グループ演習形式で発表を行いながら、効果的に学びます。

学修到達目標

1. 臨床心理の基礎となる歴史、防衛機制と転移、学習、記憶、行動について理解する。
2. 発達に沿った心理とその心理療法について理解する。
 - (1) 児童・青年期心理、成人高齢者心理、患者・障害者心理について理解する。
 - (2) 臨床心理検査法、心理療法およびカウンセリングについて理解する。

授 業 計 画

- | | |
|------|---------------|
| 第1回 | 臨床心理学とは何か |
| 第2回 | 臨床心理学的臨床の実際 |
| 第3回 | 臨床心理学の対象1 |
| 第4回 | 臨床心理学の対象2 |
| 第5回 | 臨床心理学の対象3 |
| 第6回 | 臨床心理学の対象4 |
| 第7回 | 臨床心理学的アセスメント1 |
| 第8回 | 臨床心理学的アセスメント2 |
| 第9回 | 臨床心理学的アセスメント3 |
| 第10回 | 臨床心理学的介入法1 |
| 第11回 | 臨床心理学的介入法2 |
| 第12回 | 臨床心理学的介入法3 |
| 第13回 | 臨床心理学的介入法4 |
| 第14回 | 臨床心理学的介入法5 |
| 第15回 | 社会的専門性と連携、まとめ |

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。

教科書

面白いほどよくわかる 臨床心理学

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

人間の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学びます。予習・復習をして概要を理解しましょう。

【専門基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	病理学						
担当講師	佐藤孝 阿保亜紀子						
実務経験の概要	佐藤 孝 : 医師 病院にて, 病理学医師として実務経験を有する。 阿保 亜紀 : 医師 病院にて, 病理学医師として実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/オムニバス						

授業概要

病気の原因, 病気の発症・進展の過程, 患者に対する影響などをスライドやテキスト, レジメを用いて学びます。

学修到達目標

1. 病因論 (内因・外因) について理解する。
2. 病理学的変化 (血行障害、進行性・退行性病変、炎症・感染・免疫・アレルギー、腫瘍・新生物、奇形・遺伝を含む) について理解する。
3. 生体反応 (ホメオスターシス、ストレス) について理解する。

授 業 計 画

第1回	病理学で学ぶこと	佐藤孝
第2回	細胞・組織の障害と修復	佐藤孝
第3回	炎症と免疫	阿保亜紀子
第4回	アレルギーと自己免疫疾患、膠原病	阿保亜紀子
第5回	循環障害①	佐藤孝
第6回	循環障害②	佐藤孝
第7回	感染症①	阿保亜紀子
第8回	感染症②、老化と死	阿保亜紀子
第9回	先天異常と遺伝子異常①	阿保亜紀子
第10回	先天異常と遺伝子異常②	阿保亜紀子
第11回	代謝障害 (脂質代謝、タンパク質代謝)	佐藤孝
第12回	代謝障害 (糖質、その他の代謝障害)	佐藤孝
第13回	腫瘍 (概論)	阿保亜紀子
第14回	腫瘍 (各論)	阿保亜紀子
第15回	まとめ	阿保亜紀子

評価方法

筆記試験 (マークシート) 100% で評価する。

教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 病理学

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

病名を聞いたら, その病気の原因は何なのか, どのような病態なのかイメージできるようになることを目標にしましょう。

科目名	臨床医学総論						
担当講師	齊藤和好 河嶋寛 西島光茂 齊藤慎二						
実務経験の概要	齊藤和好 : 医師 病院にて、外科医師として実務経験を有する。 河嶋寛 : 医師 病院にて、耳鼻咽喉科医師として実務経験を有する。 西島光茂 : 医師 病院にて、産婦人科医師として実務経験を有する。 齊藤慎二 : 医師 病院にて、消化器内科医師として実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義/オムニバス						

授業概要

臨床医学総論ではリハビリテーションを学ぶ療法士としては専門領域の技術の修得に加えて一般医学の知識を学ぶものである。臨床医学概論で学んだ基本的な事項をもとに、産婦人科疾患(生殖系)、耳鼻咽喉科疾患、眼疾患、皮膚疾患の領域においてみられる主な疾患の概要を理解する。

学修到達目標

1. 内科・外科系疾患の診療の流れを理解できる。
2. 一般診療以外の医学に関する知識を身につけることができる。
3. 理学療法・作業療法に関わりの少ない疾患に関する理解を深めることができる。

授業計画

第1回	救急救命医学	齊藤和好
第2回	外科総論(感染症含む)	齊藤和好
第3回	脳神経外科概論	齊藤慎二
第4回	皮膚疾患	齊藤慎二
第5回	眼疾患	齊藤慎二
第6回	老年医学	齊藤慎二
第7回	婦人科・産科疾患	西島光茂
第8回	耳鼻咽喉科疾患	河嶋寛

評価方法

筆記試験(マークシート) 100% で評価する。

教科書

PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版(医歯薬出版)

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

科目名	整形外科学						
担当講師	古町克郎 佐藤光太郎 岩手医科大学整形外科学講座医師 長野由紀江 菊池賢汰						
実務経験の概要	古町 克郎 : 医師 病院にて、整形外科医師として実務経験を有する。 佐藤 光太 : 医師 病院にて、整形外科医師として実務経験を有する。 岩手医科大学整形外科学講座医師 : 医師 病院にて、整形外科医師として実務経験を有する。 長野由紀江 : 理学療法士 医療施設において実務経験を有する。 菊池賢汰 : 理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	通年
授業形態	講義/オムニバス						

授業概要

整形外科領域における疾患の特徴について理解を深めるために、骨関節障害を中心とした運動器障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

学修到達目標

- 疫学、予後、病因、症候、評価、検査、診断、リハビリテーション医療、その他の治療について理解する。
- 骨関節疾患等（一部神経疾患含む）の一般的疾患について理解する。（変形性関節症、人工関節置換術後、骨折、脱臼、靭帯損傷、関節リウマチ、スポーツ障害、脊椎疾患、腰痛症、切断、関節疾患、骨粗鬆症骨壊死性疾患、先天異常、系統疾患、骨軟部腫瘍）

授 業 計 画

第1回	【前期】	歴史、骨・軟骨の生理学	古町克郎
第2回		骨折	古町克郎
第3回		整形外科的診断学	古町克郎
第4回		整形外科的治療法	古町克郎
第5回		肘、末梢神経	佐藤光太郎
第6回		手、前腕	佐藤光太郎
第7回	【後期】	整形外科学各論 脊椎・脊髄疾患1	講座医師
第8回		脊椎・脊髄疾患2	講座医師
第9回		股関節疾患	講座医師
第10回		関節リウマチ、脊椎関節炎、腱付着部炎	講座医師
第11回		スポーツ外科、膝関節疾患	講座医師
第12回		外傷、肩関節疾患	講座医師
第13回		軟部腫瘍	講座医師
第14回		骨腫瘍	講座医師
第15回		切断、足部疾患	講座医師
第16回		整形外科疾患の基礎・復習学習1	長野由紀江
第17回		整形外科疾患の基礎・復習学習2	長野由紀江
第18回		整形外科疾患の基礎・復習学習3	長野由紀江
第19回		整形外科疾患の基礎・復習学習4	長野由紀江
第20回		整形外科疾患の基礎・復習学習5	菊池賢汰
第21回		整形外科疾患の基礎・復習学習6	菊池賢汰
第22回		整形外科疾患の基礎・復習学習7	菊池賢汰

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。（前期末試験（50%） 後期末試験（50%））

教科書

標準整形外科学 第14版（医学書院）

参考図書・文献

神中整形外科（南山堂） 骨軟部疾患の画像診断 第2版（秀潤社） CT・MRIによる骨関節の機能解剖（金原出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

解剖生理を確認しながら予習復習を通して基礎学習することを勧めます。

科目名	神経内科学						
担当講師	岩手医科大学内科学講座脳神経内科・老年科分野医師（岩岡和博 他）						
実務経験の概要	岩手医科大学内科学講座脳神経内科・老年科分野医師（岩岡和博 他） ：医師 病院にて、神経内科医師として実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	通年
授業形態	講義/オムニバス						

授業概要

神経障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。中枢神経や末梢神経の機能や構造を理解し，それらが障害されることで発生する症状や病態について理解する。また，各種疾患に対する医学的治療や経過予後について理解を深める。

学修到達目標

1. 神経内科学における疫学，予後，病因，症候，評価，検査，診断，リハビリテーション医療，その他の治療について説明できる。
2. 中枢神経疾患の一般的疾患について説明できる。
(脳血管障害，感染・炎症性疾患，神経変性疾患，神経免疫疾患，外傷，腫瘍，てんかん，視覚・聴覚障害)
3. 末梢神経・筋障害の一般的疾患について説明できる。（筋疾患・神経接合部疾患、外傷、腫瘍）

授 業 計 画

第1回	【前期】	総論/神経診断学/症候学1
第2回		疾患総論/神経診断学/症候学2
第3回		疾患総論/神経診断学/症候学3
第4回		疾患総論/神経診断学/症候学4
第5回		脳血管障害1
第6回		脳血管障害2
第7回		脳腫瘍
第8回		感染症
第9回		外傷・自律神経・機能性疾患1
第10回		外傷・自律神経・機能性疾患2
第11回		先天性疾患
第12回		脊髄疾患
第13回	【後期】	変性疾患1
第14回		変性疾患2
第15回		末梢神経障害1
第16回		末梢神経障害2
第17回		筋疾患・筋接合部疾患1
第18回		筋疾患・筋接合部疾患2
第19回		脱髄疾患
第20回		代謝・中毒性筋疾患
第21回		認知症1
第22回		認知症2
第23回		総括講義(国家試験頻出疾患など)

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。（前期末試験（50%） 後期末試験（50%））

教科書

神経内科学テキスト（南江堂）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

各講師が話すポイントを理解することが重要です。丸暗記の教科だと誤解している学生がいますが、暗記するのではなく、理解することが重要です。

科目名	内科学						
担当講師	齊藤恵子 菊池均 登坂憲吾 高橋進 安田有子 佐藤龍昌						
実務経験の概要	齊藤 恵子 : 医師 病院にて、内科医師としての実務経験を有する。 菊池 均 : 医師 病院にて、内科医師としての実務経験を有する。 登坂 憲吾 : 医師 病院にて、内科医師としての実務経験を有する。 高橋 進 : 医師 病院にて、内科医師としての実務経験を有する。 安田 有子 : 医師 病院にて、内科医師としての実務経験を有する。 佐藤 龍昌 : 医師 病院にて、内科医師としての実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	前期
授業形態	講義 オムニバス						

授業概要

内部障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を理解する。

【消化器疾患】成人における消化管・肝・胆・膵疾患の病因、病態生理、症候、診断、治療について系統的に学び、消化器病学の基礎知識を修得するのが目的です。パワーポイントを使っての説明が主になります。

【代謝疾患】内科疾患のうち、主に生活習慣病に分類される代表的疾患について学んでいきます。

【血液・免疫疾患】血液免疫疾患の概要を学習します。

【循環器疾患】循環器疾患の概要を学習します。

【呼吸器疾患】呼吸器全般、特に呼吸生理学について概説します。

【内分泌疾患】病気の起こり方と成り立ちを中心にし、わかりやすい授業を目指します。

学修到達目標

- 疫学、予後、病因、症候、評価、検査、診断、リハビリテーション医療、その他の治療について説明できる。
- 消化器系疾患、呼吸器系疾患、循環器系疾患、内分泌・代謝系疾患、腎・泌尿器疾患、血液・自己免疫疾患の概要と治療法について説明できる。

授業計画

第1回	【消化器疾患】	消化管疾患総論・食道・胃の疾患	佐藤龍昌
第2回		大腸の疾患・肝臓疾患基礎	佐藤龍昌
第3回		肝臓疾患・胆嚢・膵臓の疾患	佐藤龍昌
第4回	【代謝疾患】	代謝疾患総論	齊藤恵子
第5回		糖尿病の病態・合併症	齊藤恵子
第6回		糖尿病の治療	齊藤恵子
第7回		高脂血症・痛風・肥満	齊藤恵子
第8回	【血液・免疫疾患】	血液・造血管疾患	菊池均
第9回		免疫学・アレルギー・膠原病	菊池均
第10回	【循環器疾患】	解剖と生理・診断法	登坂憲吾
第11回		心不全・虚血性心疾患	登坂憲吾
第12回		心筋疾患・心臓弁膜症	登坂憲吾
第13回		先天性心疾患・感染性心内膜炎・心膜炎	登坂憲吾
第14回		不整脈	登坂憲吾
第15回		高血圧症	登坂憲吾
第16回	【腎疾患】	解剖と生理	佐藤龍昌
第17回		腎不全	佐藤龍昌
第18回	【呼吸器疾患】	解剖と生理・呼吸機能検査	高橋進
第19回		肺感染症・アレルギー性肺疾患	高橋進

第20回		閉塞性・拘束性換気障害	高橋進
第21回		肺循環障害・肺腫瘍・胸膜疾患	高橋進
第22回	【内分泌疾患】	解剖と生理	安田有子
第23回		内分泌疾患	安田有子

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。（第1回試験（50%） 第2回試験（50%））

教科書

メディカルスタッフのための内科学（医学出版社）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

[循環器・代謝疾患] 講義受講前に教科書を読んで講義に臨んで下さい。 [内分泌疾患] 内分泌学はホルモン名に略語が使われますので、両方を覚えて授業に臨んでほしい。 [消化器疾患] 限られた時間ですので、消化管・肝の解剖学と生理学を復習し、教科書には目を通してきて下さい。

科目名	外科学						
担当講師	佐藤龍昌						
実務経験の概要	医師 病院にて、医師としての実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

外科疾患の病態と診療の流れ，リハビリテーションとの関連の理解を図る。

学修到達目標

1. 各種疾患の病態を理解できる。
2. 各種疾患の診療の流れを理解できる。
3. 各種疾患におけるリハビリテーションとの関係を理解できる。

授 業 計 画

- 第1回 外科における診療方針
- 第2回 外科診療の種類と方法
- 第3回 心臓外科・血管外科・呼吸器外科
- 第4回 食道外科・胃外科・大腸外科
- 第5回 肝臓外科・胆道外科・膵臓外科
- 第6回 小児外科・泌尿器外科・生殖器外科
- 第7回 脳神経外科・内分泌外科・乳腺外科疾患
- 第8回 緩和ケア

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。

教科書

わかりやすい外科学（文光堂）

参考図書・文献**履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)**

科目名	小児科学						
担当講師	土屋繁国 鈴木幸之介						
実務経験の概要	土屋 繁国 : 医師 病院にて小児科医師として実務経験を有する。 鈴木 幸之 : 医師 病院にて小児科医師として実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義/オムニバス						

授業概要

小児科の一般的な疾患および小児リハビリテーションに必要な各疾患の特徴を理解することを目的とし、病因や病態生理、症候、診断、治療を学びます。

学修到達目標

1. 小児疾患の疫学、病因、病態、症候、診断、評価、検査、リハビリテーション医療、救命救急、その他の治療について説明できる。

授業計画

- 第1回 総論
- 第2回 解剖・生理（小児の成長、大人と子どもの違い）
- 第3回 発達（Keyとなる月齢・年齢での反射・発達、発達評価）
- 第4回 新生児（新生児の特徴的な疾患・病態、早産児）
- 第5回 呼吸器（気道の解剖、上気道疾患、下気道疾患）
- 第6回 感染症（細菌とウイルスの違い、各疾患の原因と病原体）
- 第7回 循環器、消化器（解剖・機能、疾患の診断・治療）
- 第8回 神経・筋疾患（各疾患の診断と治療、けいれん・てんかん・二分脊椎など）
- 第9回 血液・アレルギー・免疫（貧血の種類、白血病の種類や症状、免疫疾患、アレルギーの症状）
- 第10回 内分泌・栄養（視床下部・下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎ホルモン、栄養障害、ビタミン障害）
- 第11回 代謝・腎（糖尿病の種類、低血糖症、腎臓の解剖、ネフローゼ症候群、尿路疾患）
- 第12回 遺伝子（染色体・遺伝子のしくみ、染色体異常）
- 第13回 腫瘍・救急・外科（小児がん※白血病を除く、心肺蘇生、事故：外傷・溺水、誤飲・誤嚥）
- 第14回 精神・心身症（発達障害：自閉症スペクトラム、ADHD、チック、神経性食思不振、自尊心）
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。

教科書

看護学入門 母子看護（メヂカルフレンド社）

参考図書・文献

標準小児科学（医学書院）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

小児は全身にわたる疾患をみえています。範囲が非常に広いので、講義中に示すポイントを把握するようにして下さい。また、幅広い科目であり予習復習にて講義内容を確認することを勧めます。

科目名	精神医学						
担当講師	肥田 篤彦						
実務経験の概要	医師 病院にて精神科医師として実務経験を有する						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	通年
授業形態	講義						

授業概要

講義を通し、①精神症状について理解を深め、②ある程度の鑑別疾患を挙げることができ、③その疾患が内因性、外因性のいずれかの障害によるものかを理解することを目標とする。そして、④将来実践の場において、それらの疾患患者への援助や精神的アプローチが適切にできることを目指す。講義の内容として、精神障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学びます。

学修到達目標

- 疫学、予後、病因、評価、検査、診断、リハビリテーション医療、その他治療について説明できる。
- 精神障害の一般的疾患について説明できる。
(器質性精神病、精神作用物質しよによる精神および行動の障害、統合失調症および行動の障害、統合失調症及び妄想性障害、気分障害、神経症性障害、生理的障害及び身体的要因に関連した行動障害、成人パーソナリティー及び行動の障害、心理的発達の障害、小児及び青年期に発症する行動及び情動の障害、てんかんなど)

授業計画

- | | | |
|------|------|------------------------|
| 第1回 | 【前期】 | 総論「精神医学の歴史と精神疾患の原因と分類」 |
| 第2回 | | 総論「精神科症状学①」 |
| 第3回 | | 総論「精神科症状学②」 |
| 第4回 | | 総論「精神科症状学③」 |
| 第5回 | | 総論「精神科症状学④」 |
| 第6回 | | 総論「精神医学的検査」 |
| 第7回 | | 各論「身体因性精神病」 |
| 第8回 | | 各論「認知症とその周辺疾患」 |
| 第9回 | | 各論「知的障害・てんかん」 |
| 第10回 | | 各論「アルコール依存症・精神科治療学」 |
| 第11回 | 【後期】 | 各論「統合失調症①」 |
| 第12回 | | 各論「統合失調症②」 |
| 第13回 | | 各論「統合失調症③」 |
| 第14回 | | 各論「気分障害①」 |
| 第15回 | | 各論「気分障害②」 |
| 第16回 | | 各論「神経症①」 |
| 第17回 | | 各論「神経症②」 |
| 第18回 | | 各論「発達精神医学①」 |
| 第19回 | | 各論「発達精神医学②」 |
| 第20回 | | 各論「人格障害・法と精神医学」 |

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。（前期末試験（50%） 後期末試験（50%））

教科書

精神神経疾患ビジュアルブック（学研メディカル秀潤社）

参考図書・文献

現代臨床精神医学（金原出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

科目名	リハビリテーション医学						
担当講師	西村行秀 古町克郎 大井清文 佐藤義朝 戸来幸恵						
実務経験の概要	西村 行秀 : 医師 病院にて、リハビリテーション医師として実務経験を有する。 古町 克郎 : 医師 病院にて、リハビリテーション医師として実務経験を有する。 大井 清文 : 医師 病院にて、リハビリテーション医師として実務経験を有する。 佐藤 義朝 : 医師 病院にて、リハビリテーション医師として実務経験を有する。 戸来 幸恵 : 作業療法士 小児施設等にて小児領域での実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義/オムニバス						

授業概要

リハビリテーション医療の概要とそれに関わる対象疾患の病態について学ぶ。また、リハビリテーション医療において必要な障害の評価や治療について学ぶ。

学修到達目標

1. リハビリテーション医学医療の概念、リハビリテーション診断、評価、治療について説明できる。
2. リハビリテーションの対象となる疾患による障害とリハビリテーションの課程について理解できる。

授 業 計 画

第1回	リハビリテーション医学 概要① (理念、定義、特徴)	西村行秀
第2回	リハビリテーション医学 概要② (診断 治療)	西村行秀
第3回	地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション	大井清文
第4回	疾患別 運動の基礎、骨関節疾患	古町克郎
第5回	疾患別 末梢神経損傷	古町克郎
第6回	疾患別 関節リウマチ	古町克郎
第7回	疾患別 切断・義肢装具	古町克郎
第8回	疾患別 脊髄損傷	古町克郎
第9回	疾患別 脳血管障害①	大井清文
第10回	疾患別 脳血管障害②	大井清文
第11回	疾患別 パーキンソン病	大井清文
第12回	疾患別 神経筋疾患： 筋萎縮性側索硬化症、その他	佐藤義朝
第13回	疾患別 神経筋疾患： 筋ジストロフィー症、その他	佐藤義朝
第14回	疾患別 呼吸器疾患 循環器疾患	佐藤義朝
第15回	疾患別 小児神経疾患： 脳性麻痺・二分脊椎	戸来幸恵

評価方法

筆記試験 (マークシート) 100% で評価する。

教科書

総合力がつくりリハビリテーション医学・医療テキスト (日本リハビリテーション医学教育推進機構)

参考図書・文献

現代リハビリテーション医学 (金原出版)・標準リハビリテーション医学(医学書院)、講義の中で紹介

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

科目名	多職種連携論Ⅰ						
担当講師	中嶋奈津子 阿部信之 井上純司 岡崎謙治 小泉進 小松平誠 佐藤信 富岡幸子 中野真理						
実務経験の概要	中嶋奈津子 : 理学療法士 医療施設や介護保険施設にて実務経験を有する。 阿部信之 : 言語聴覚士 一般病棟、回復病棟、療養病棟での言語聴覚療法(成人領域)の実務経験を有する。 井上純司 : 社会福祉士・介護福祉士・相談支援専門員 相談支援事業所にて実務経験を有する。 岡崎謙治 : 作業療法士 医療施設・精神領域施設にて実務経験を有する。 小泉進 : 社会福祉士・精神保健福祉士 医療施設にて実務経験を有する。 小松平誠 : 介護福祉士・介護支援専門員 介護保険施設にて実務経験を有する。 富岡幸子 : 看護師 医療施設にて実務経験を有する。 中野真理 : 保健師 看護師 町役場にて保健業務の実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	通年
授業形態	講義・グループワーク						

授業概要

臨床における多職種との関係構築の必要性とその流れについて学修します。
 講義後半ではシュミレーションを行い、多職種連携の必要性を実感します。

学修到達目標

1. 臨床における多職種連携の必要性が理解できる。
2. 多職種との連携の流れを理解できる。

授業計画

第1回	多職種連携とは	中嶋奈津子
第2回	言語聴覚士から見た理学療法士	阿部信之
第3回	支援相談員から見た理学療法士	井上純司
第4回	作業療法士から見た理学療法士	岡崎謙治
第5回	医療ソーシャルワーカーから見た理学療法士	小泉進
第6回	ケアマネージャーから見た理学療法士	小松平誠
第7回	特別支援学校教員から見た理学療法士	佐藤信
第8回	看護師から見た理学療法士①	富岡幸子
第9回	看護師から見た理学療法士②	富岡幸子
第10回	保健師から見た理学療法士	中野真理
第11回	多職種の中の理学療法士	中嶋奈津子
第12回	多職種連携の理想①(シュミレーション)	中嶋奈津子
第13回	多職種連携の理想②(シュミレーション)	中嶋奈津子
第14回	多職種連携の理想③(シュミレーション)	中嶋奈津子
第15回	多職種連携の理想④(シュミレーション)	中嶋奈津子

評価方法

課題レポート

教科書

プリント教材

参考図書・文献**履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)**

現代の医療、介護、福祉は職種により業務が細分化していますので、連携の重要性を理解して下さい。
 また、講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性がります。